

新聞からたどる黒埼の歴史 (五)

大野小学校の先生が蓄音機を大野に持ってきたのは大正十四年ころで、昔好きなきな生徒たちは夜になると集まった。

西蒲原郡黒島協会の  
明治二十三年一月十八日記事  
同会は阿部良吉、村山翠、金尾辰一郎、鷲尾堅司の四氏発起者となり、本邦法典の研究、その他必要な学術の研究をなさんため、去年開きたるもの由なるが、開設以来回を重ねたるに追々盛大に趣く景況なれば、発起者は今度更に一層拡張し青年子弟の知識を開発し、惇徳の行為を矯正するの目的を以て来る一月五日を期し、一時中絶し居たる有済学舎を再興して修身、読書、算術の三科を教授することに決したる由。

黒鳥(村)は昔から学事奨励に熱心なところで、これは、阿部良吉氏が一時中絶していた「有済学舎」を再興し、修身、読書、算術を教えるという事である。新潟新聞記事によると、黒鳥ではこれを遡る六年前、「明治十七年八月二十七日記事に、黒鳥村の鷲尾直之十、大橋半三郎らは知



西郷隆盛

文政十年(一八二七) 鹿兒島城下の下級藩士  
弘化元年(一八四四) 十八歳薩摩藩部方書記  
安政元年(一八五四) 藩主斉彬に認められ江戸参勤に随行  
元治元年(一八六四) 三十八歳禁門の変で陣頭指揮。勝と会見  
明治元年(一八六八) 四十二歳戊辰戦争で江戸で勝と会見。江戸城攻めを止める  
明治六年(一八七三) 征韓論に敗れ官を辞して下野  
明治十年(一八七七) 西南戦争敗退鹿兒島城山にて自決

識を研磨し、村の少年子弟を教育しようと「交詢会」を設け、有志者を奨励し加盟するもの既に七十名に及ぶとある。二十三年の前記記事に続いて二十四年二月十五日付に、黒島村では明治十七年以來尋常小学校の外に「有済社」を設け、農閑期に夜学を開いて子弟の教育に当たっている。同二十六年二月十二日  
記事にも、黒鳥村重だち有志は、青年子弟を教授せんため今回、「有済社」なるものを設立せしが、去月二十一日より開校し石崎万平氏之を担当し、  
明治十年(一八七七) 山にて自決

し居りその修学生は目下三十名くらいなりと。  
当時、黒埼地区の各村にも時たま識者らによってこのよ様な形の子弟教育学習会が行われていたと新聞の記録に残っているが、特にその中で黒鳥村には優れた識者が多く、この運動は他より遙かに抜きんでていたようである。

分の割合なりしが昨今は生の方勢い悪しく、三分位に減じたるよし。  
同日の新聞記事に「西郷西比刺亞にあり」と記してある。去る八日の土曜新聞に依れば、去る明治二十一年より翌二十二年に涉り中央茶業組合派出委員を以て紅茶販路拡張並びに茶業視察を兼ね、露西亞に赴きたる高知ベリヤを歴遊する際、恰も二十一年十二月十二日タラスクヤルノス近傍の兵営に於て威風堂々体態いと肥太りたる一個の日本人が馬を東西に馳せて兵士を教練するを見受けたり、某は往時、陸軍大尉として職を近衛に奉せしかば、常に南州と相接して其の状況を熟知せるに不思議にも此の一将、骨格態度ほうぼうとして南州(西郷隆盛のこと)に似たるを覺えたりと。  
昔から日本人は判官びいきといわれ、兄頼朝によつて平泉で討たれた源義経の死を痛み、一分の生存を夢見、北方に生きのびたとする説や、海を渡りジギスカンとなったという伝説もある。  
西郷の死も当時多くの人々に痛まれ、その同情から西郷死して十四年後にこのような西郷生死の賭が行われたのであろう。

あろう。  
蓄音機出現  
明治二十四年(一八九一)九月二十五日記事  
かねて来港中なる松村幸吉氏は、去る二十一日も当市上大川前通九番町錦支店に於て、蓄音機を使用し、現席に於て三遊亭圓朝の塩原太助之伝、一節、同圓朝の落語、同花子の端唄等を蓄音せり。又昨日は商業学校員の催しにて同校内に於て使用し、本日は本県学務係員その他県官の催しにて師範学校内に使用する等なり。  
新潟で蓄音機がはじめて出現したのは、今から百数年前の明治二十四年のことであつた。珍しがられて落語や端唄の吹き込みをしたり、また師範学校で教育用にも使用される見込みという。そこで大野では何時ごろからかと調べてみた。すると竹内竹市さん(大正四年生)の話により次のことがわかつた。  
それは、大正十四年ころ、大野校の斉藤校長先生が、型にはまった先生ばかりでなく、少し型やぶりで進歩的な先生も教育上に必要なのではないかと、招いたのが登坂先生。先生は、八区の鳥久商店(今の東食堂の所)の二階に下宿していられたが、実家が裕福だったので、当時大野の

町でも大方さんや、笹源、新潟屋など町に三、三軒しかなかった蓄音機を先生は持って来ておられた。夜になると先生の受け持ちの音楽好きな竹内さんたち三年生の子供達が大勢蓄音機を聞きに下宿に集まったという。(詳しくは黒埼町の今昔参照)こうして大野での蓄音機は大正末期の頃とわかつた。  
西蒲原郡金巻村通信  
明治二十七年一月二十一日記事  
一月二十日発  
「風俗矯正」、当村(大野)の事、笹川系藏、永井俊一郎、渡辺平治、立石龜藏諸氏は、目下村内の風俗矯正に尽力中なり、大字大野町桜井喜妻某(四十五年)は、旧臘三十日午後七時頃、入湯に赴くと家を出でたるまま同町より中蒲原郡鷲巻村に架設せる橋の中央より身を水中に投じたるにぞ、法螺貝を吹き鳴らし、て非常を告げ町民夫々手分けして捜索せしも、死骸は今に見当らざるが原因は不明なれど、多分発狂せしものならん。「学事旺盛」大野尋常小学校は訓導葉賀祐之氏の来任以來、親切に教授するにぞ生徒は著しく増加し、目下就学生二百五十名以上に達し、益々隆盛の兆あり。  
註 ■は判読不明文字

平成5年度  
黒埼町自治功労者

自治振興・文化・産業等の功労者15人3団体が表彰される

平成5年度の自治功労者が決まりましたのでご紹介いたします。町の自治振興・文化・産業等に尽力された15人の方と3団体が選ばれ、11月16日(火)役場議場で表彰式が行われました。

■多年本町の自治振興につくした皆さん



磯部 博氏 (善久984番地1)

◎黒埼町議会議員を昭和54年5月から62年6月まで、平成3年5月から現在、黒埼町監査委員、黒埼町青少年問題協議会委員など歴任。



大野 仁平治氏 (小平方784番地)

◎黒埼町議会議員を昭和54年5月から62年6月まで、平成3年5月から現在、黒埼町農業共済運営協議会委員、黒埼町農業委員会委員など歴任。



黒川 繁氏 (木場2299番地)

◎黒埼町議会議員を昭和54年5月から58年4月まで、62年5月から現在、黒埼町都市計画審議会委員、黒埼町農政対策協議会常任委員など歴任。



由衛氏 山際 (木場1772番地)

◎黒埼町議会議員を昭和58年5月から現在まで、黒埼町農業振興地域整備促進協議会委員、新潟地区広域清掃事務組合監査など歴任。

■教育の振興及び文化の向上について功績が顕著な方々

坂井 勝氏

(京都府北区紫竹東大門町41番地)

◎黒埼中学校校体育館竣工にあたり日本美術展覧会に入選された作品「夏休み」を寄贈。

■産業の開発又は振興につくし功績が顕著な皆さん



田邊 健氏 (板井340番地)

◎農業委員会委員を昭和56年7月から平成5年7月まで、農業委員会会長を平成2年7月から5年7月まで務められ町職員を勤められた。



片岡 斉氏 (鳥原1687番地)

◎農業委員会委員を昭和56年7月から平成5年7月まで、農業委員会会長代理を平成2年7月から5年7月まで務められた。



宮野 瀧夫氏 (大野3238番地)

◎昭和33年2月から平成5年3月まで35年2か月にわたり町職員を勤められた。



本間 一子氏 (金巻1021番地8)

◎昭和40年4月から平成5年3月まで28年間にわたり町職員を勤められた。



(故)丸山 昌介氏 (大野894番地4)

◎昭和33年1月から平成5年9月まで35年9か月にわたり町職員を勤められた。

■公益のため多額の金品を寄附された皆さん



岡田 幸一氏 (板井285番地)

◎町行政に現金100万円を寄附される。



高橋 正平氏 (大野3287番地2)

◎社会福祉に現金100万円を寄附される。

立仏小学校創立20周年記念事業実行委員会 (立仏950番地)

◎立仏小学校創立20周年記念事業として備品(国旗掲揚塔および遊歩道一式)を寄贈される。

緒立土地区画整備組合 (流通一丁目4番地2)

◎町行政に現金2500万円を社会福祉協議会に現金100万円を寄附される。

山田土地改良区 (大野2843番地1)

◎町行政に現金462万2375円を寄附される。

■多年自治会長、またその他自治行政の振興につくした皆さん



小山 寅吉氏 (大野3693番地)

◎仲町自治会長を昭和52年から58年まで、平成2年から現在まで務められる。



長谷川 四雄氏 (大野3398番地3)

◎諏訪町自治会長を昭和58年から現在、また黒埼町交通指導員を務められる。

■特に表彰することが必要と認められる方々

阿部 恒友氏 (立仏78番地)

◎国庫補助事業の道路用地・代替地用地として町に協力。また、黒埼町公民館運営協議会委員など務められる。

